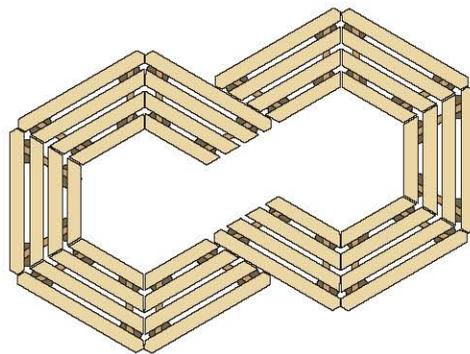
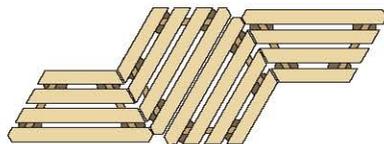
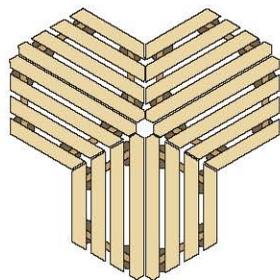


地域に関わるデザイン

信州大学大学院 草深翔太郎



地域に関わるデザイン

- 蔵の町並みキャンパス
(2006 年度 ~)
- 2014 年度から建築心理（演習）がスタート
 - 地域に根ざし、関りを感じられるベンチを設置する。
 - 歩く、座る、作業するなど行動に関わる取り組み。
 - 以上をマッチさせて、モノ（空間）をデザインする。



過去の取り組み

R1 旧河東線記念公園

R2 まゆぐら

R3 臥竜公園

R4 動物園（南園）

R5 須坂アートパーク

椅子とパーゴラ

机、椅子

ベンチ（屋外）

ベンチ（屋内）

遊具兼ベンチ



年間スケジュール

7月 ベンチ設営場所見学会 (@ 笠鉾会館)

8月

各自でプランの検討

9月

10月 大学にてエスキスチェック

11月 第一回プレゼンテーション (オンライン)

候補作品の選定 8作品

12月 第2回プレゼンテーション (須坂市市役所)

優秀作品の選定 1作品

1月 作品の図面および資料を提出

2024年 課題対象地

笠鉾会館

- ・ 1階には、全国でも珍しい2段の笠鉾11基と屋台4台が保存展示されている施設。
- ・ 毎年行われる須坂祇園祭には、この笠鉾が町中を巡行する。



設置予定地

- ・ 北側道路に面した屋外広場
- ・ 観光客の町並み散策における休憩場所

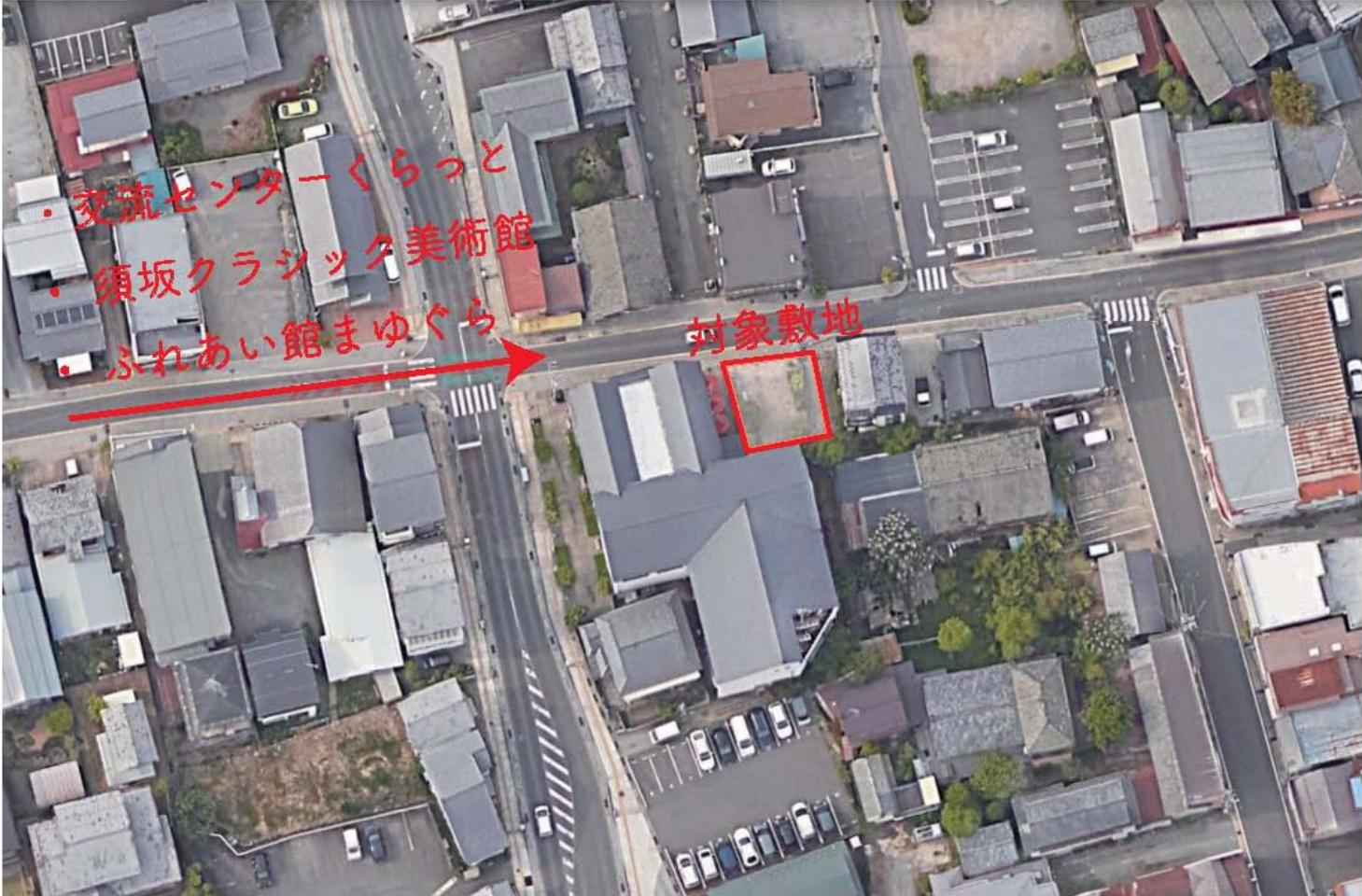


要望

- 須坂市須坂伝統的建造物群保存地区に馴染むデザイン。
- 来訪者が気軽に座れるファニチャアである。
- イベント等を行うため、幅広い世代の利用者を意識する。
- 屋外設置となるため、管理や修繕が容易にできるもの。
- 周辺環境に馴染み、設置場所の象徴となるもの。
- 配置の変更に対応する。



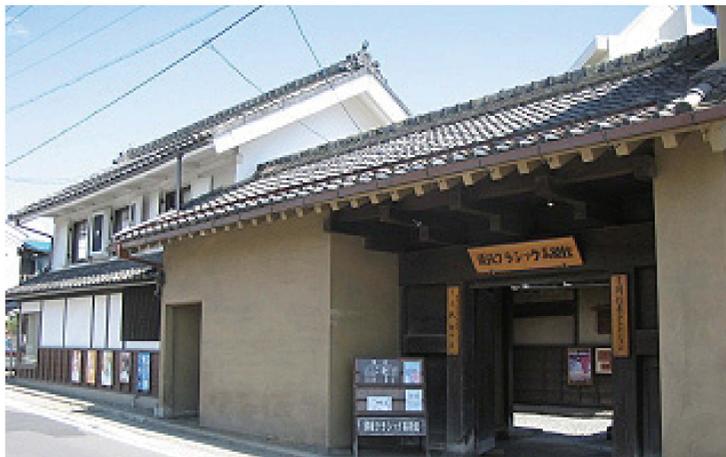
敷地分析



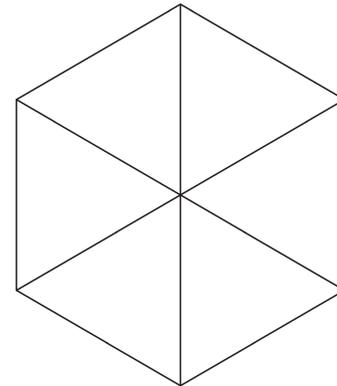
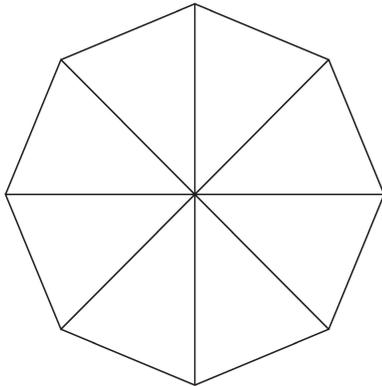
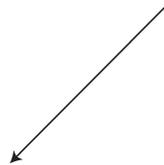
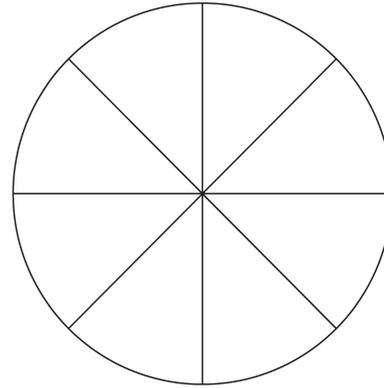
敷地分析

特徴

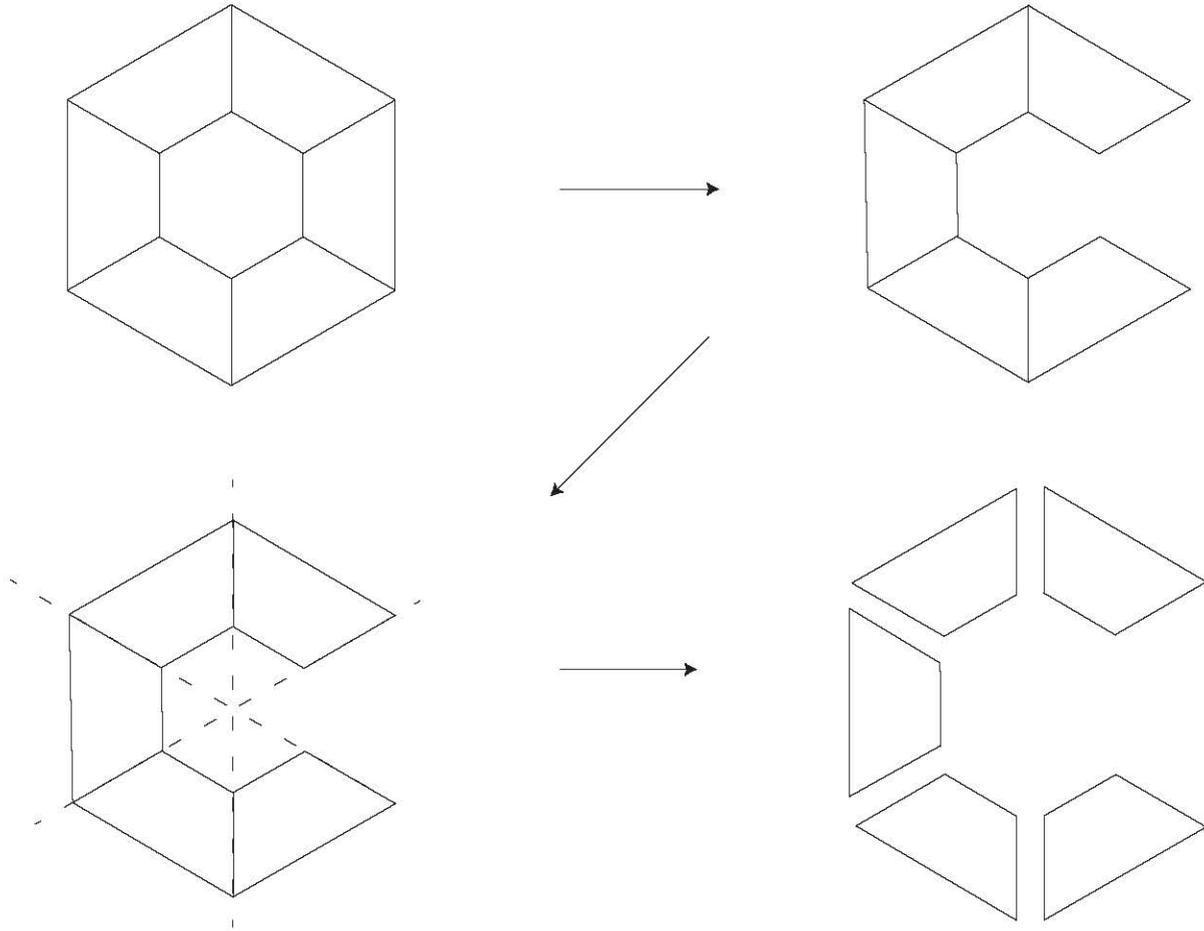
- ・ 須坂市須坂伝統的建造物群保存地区に選定され、まちを歩く人々が増える。
- ・ 敷地の西側には、「まゆぐら」、「クラシック美術館」、「交流センターくらっと」等の施設が存在する。
- ・ 立ち寄りやすい立地条件である。



ベンチの構想



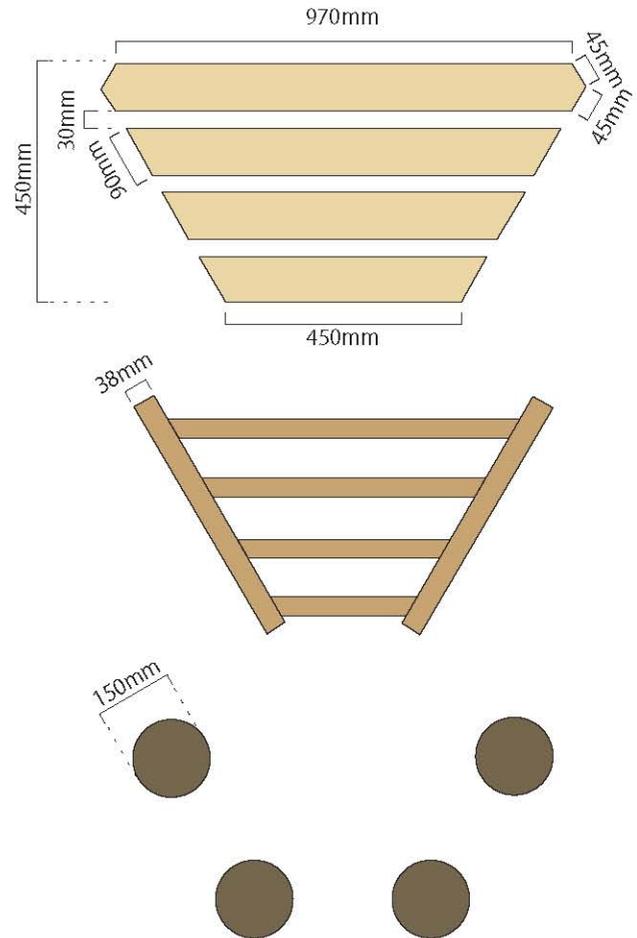
ベンチの構想



平面図 (S=1/15)

平面図

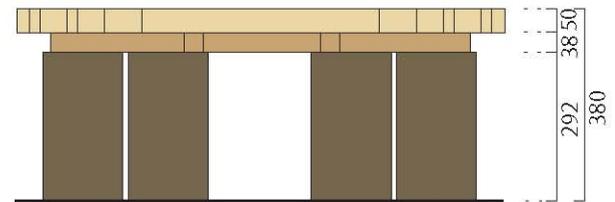
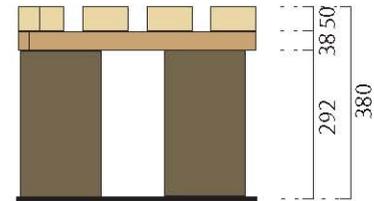
- 木材は、重量と対水面を考慮し「スギ」を使用する。
- 座面は、短手を450mm、長手を970mm、奥行きを450mmとした。
- 添え木を入れ耐久性を確保した。
- 脚は、傷みにくい丸太を採用した。



立面図 (S=1/15)

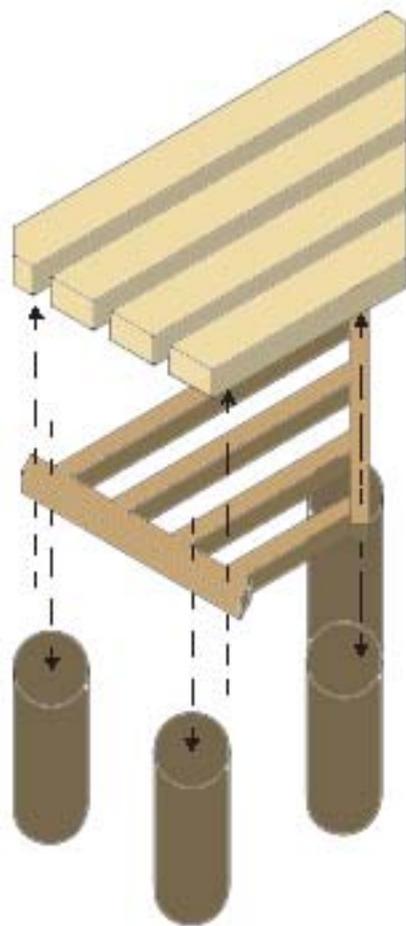
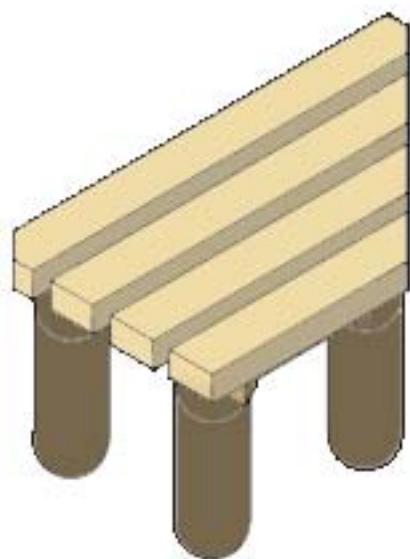
立面図

- 座面の高さは 380mm とした。
- ベンチ一脚あたりの重さ
およそ 9kg。
(座面およそ 2.1kg、添え木およそ 2.3kg、脚およそ 4.6kg)
- 雨、雪を考慮し、座面に隙間をあけた。
- 地面の傾斜に対応できるように、脚にアジャスターを付ける。

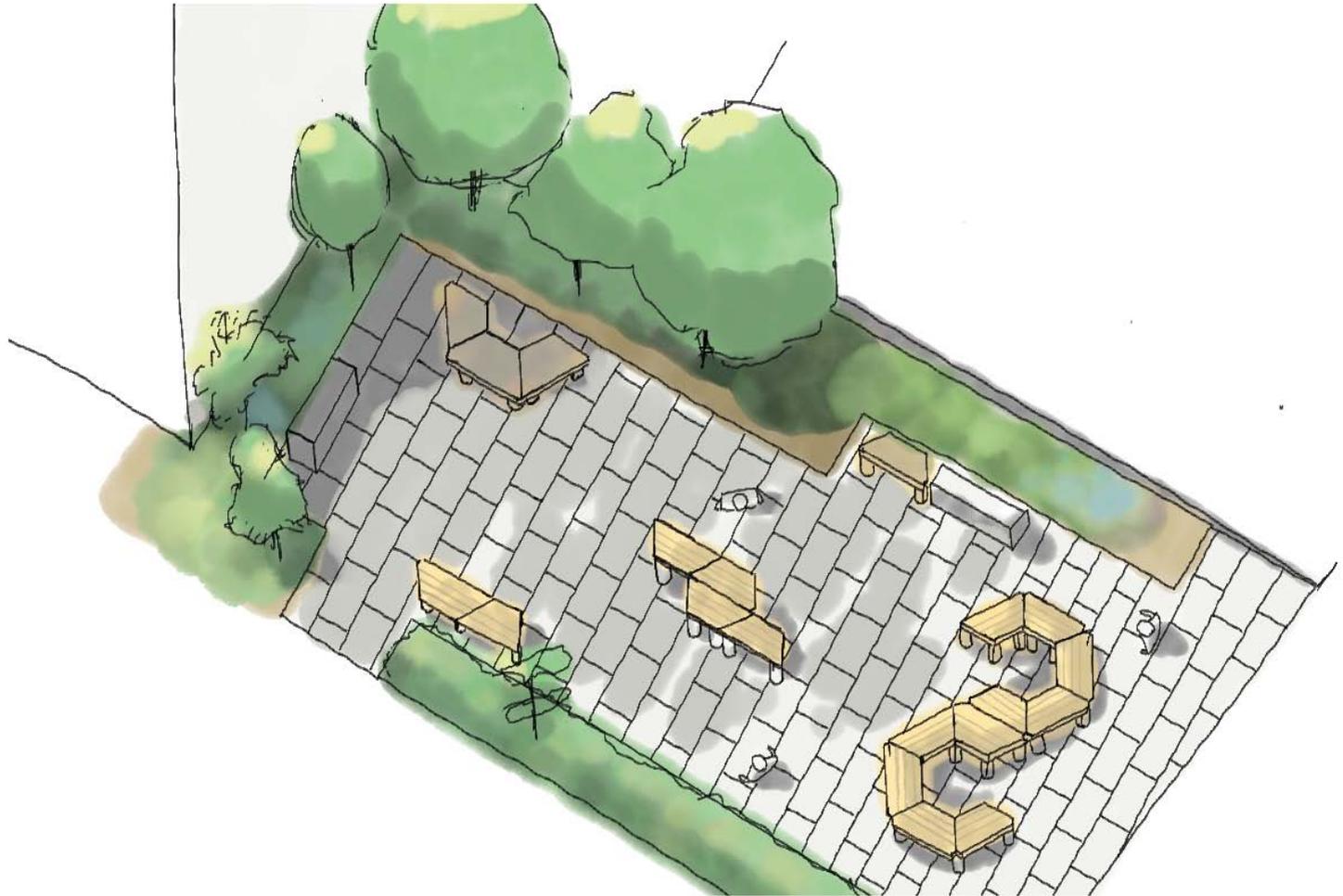


ベンチ・アクソメ

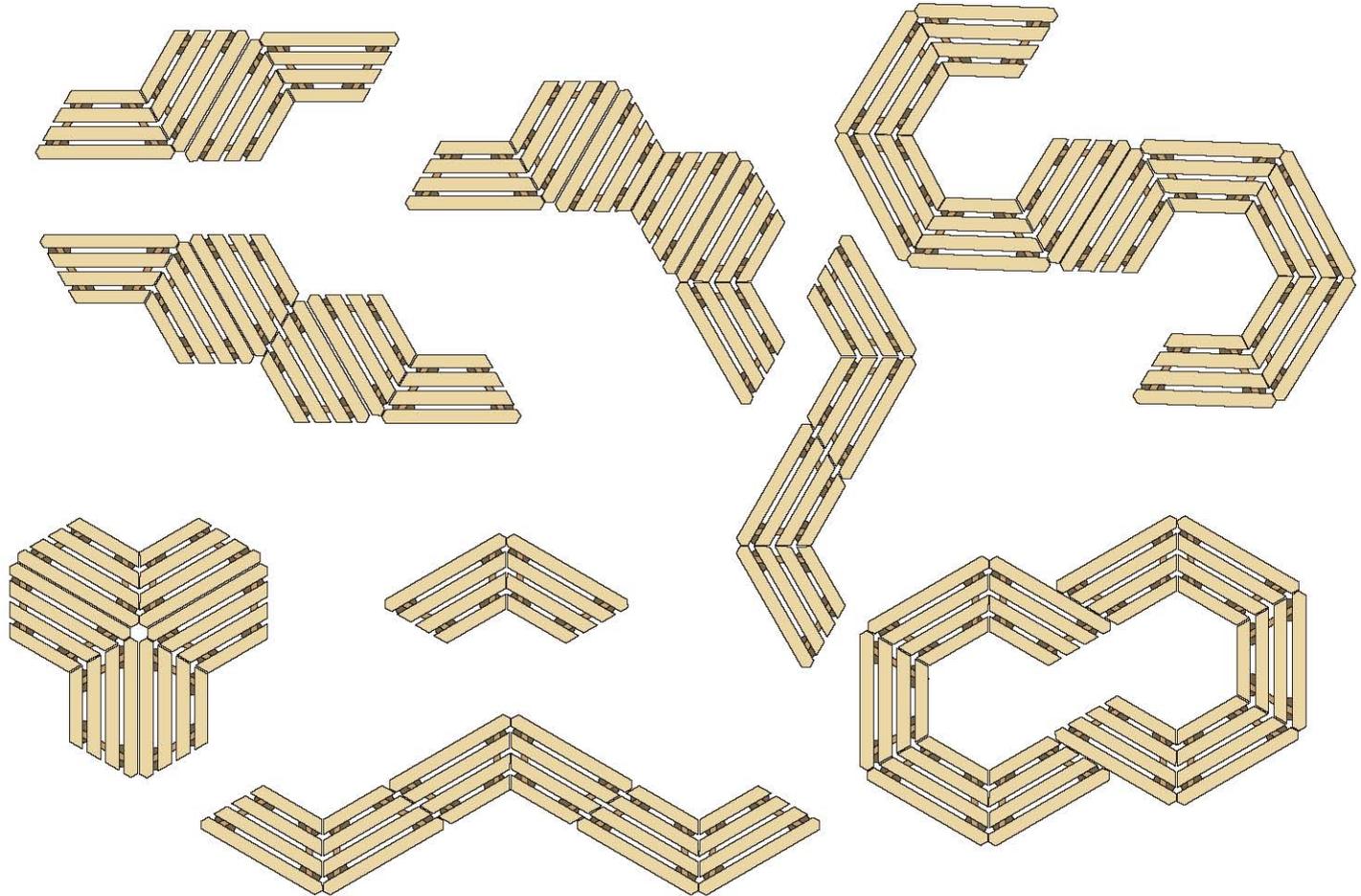
- ・ 右図の様に重ね合わせる。
- ・ 矢印のラインをビスで留める。



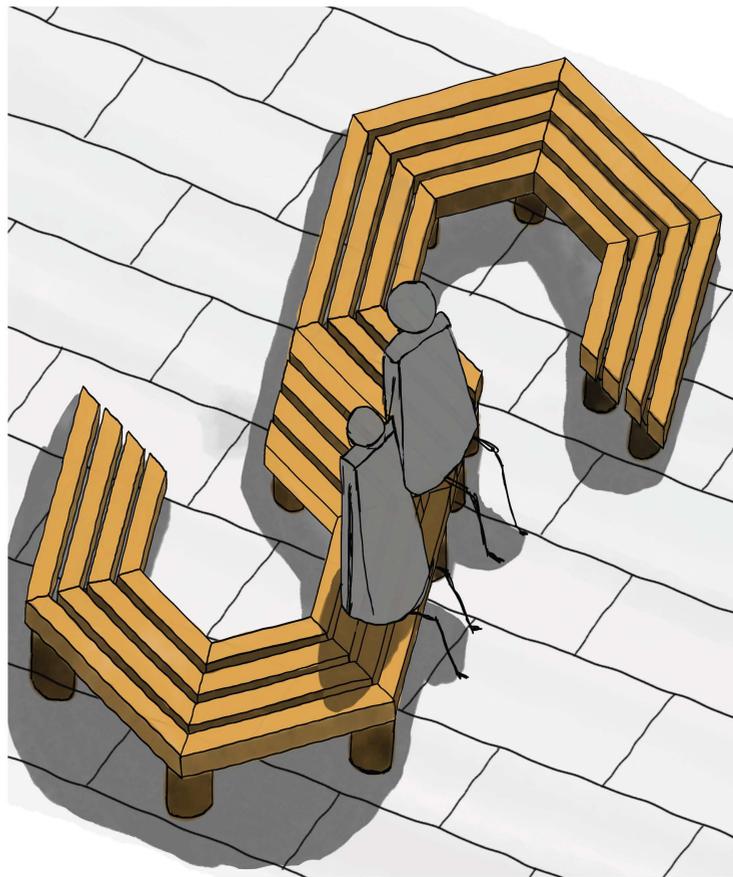
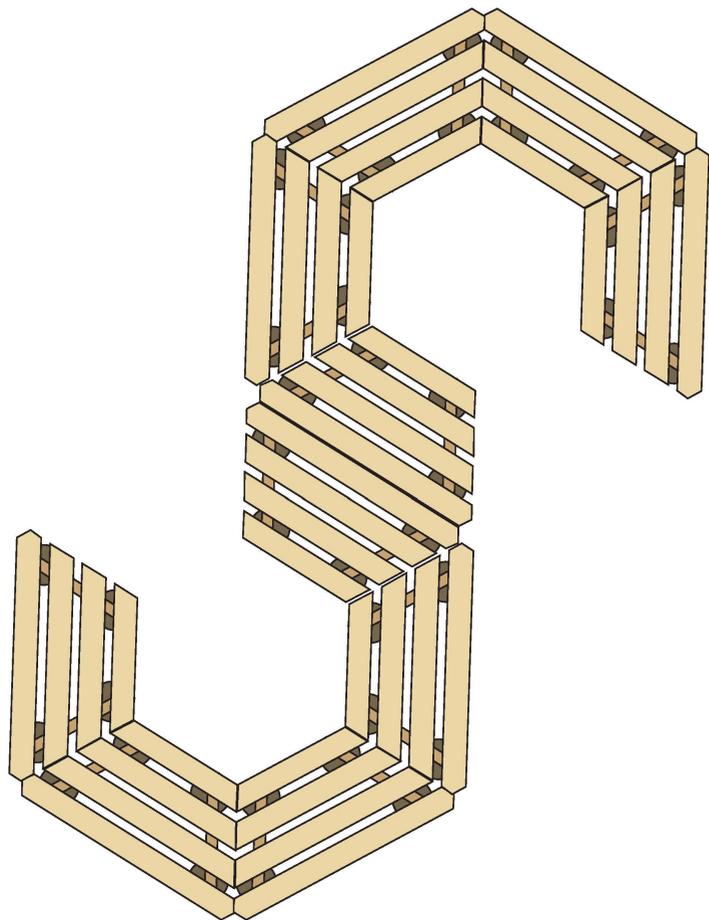
私の提案



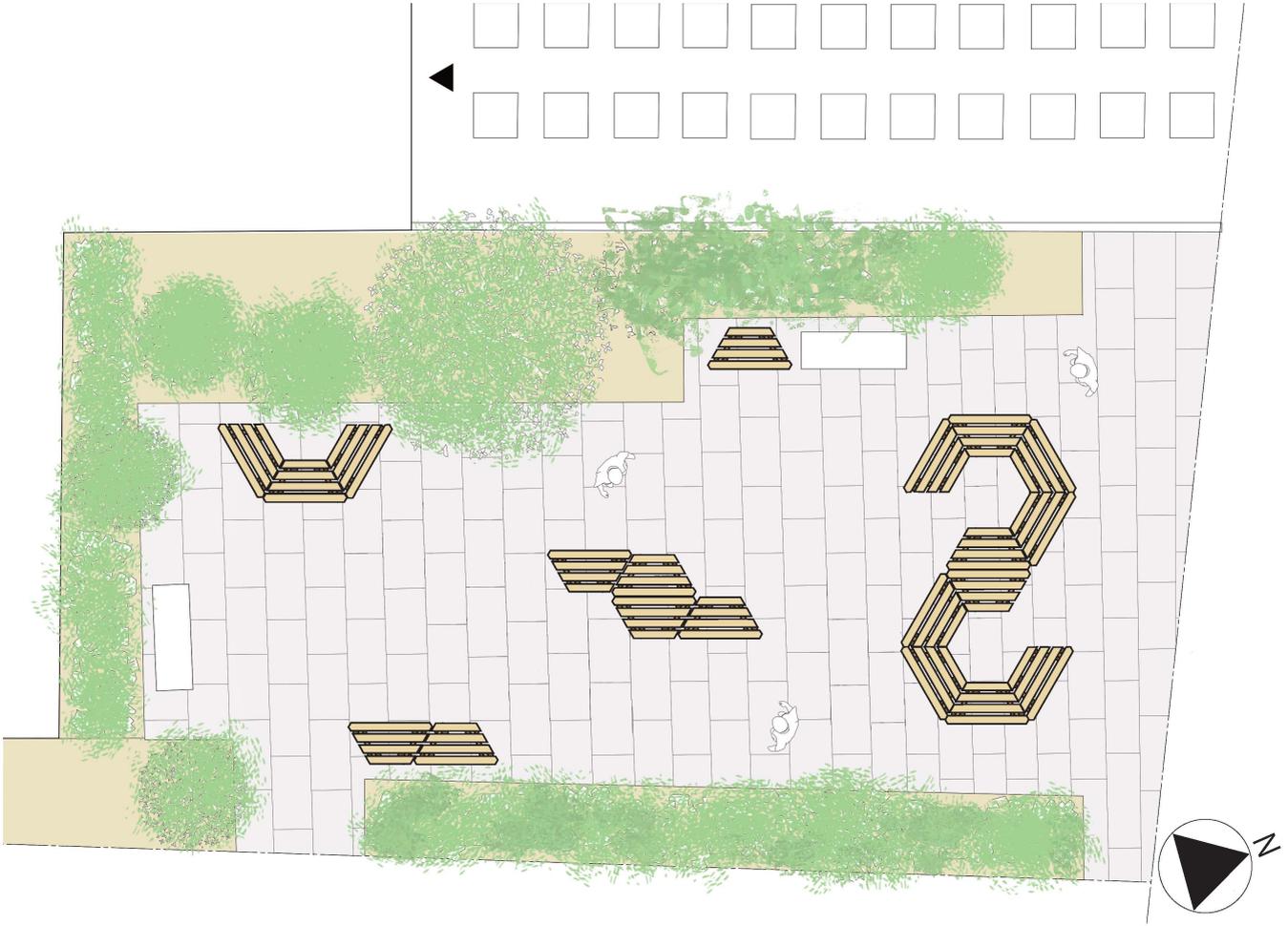
ベンチの組み合わせ



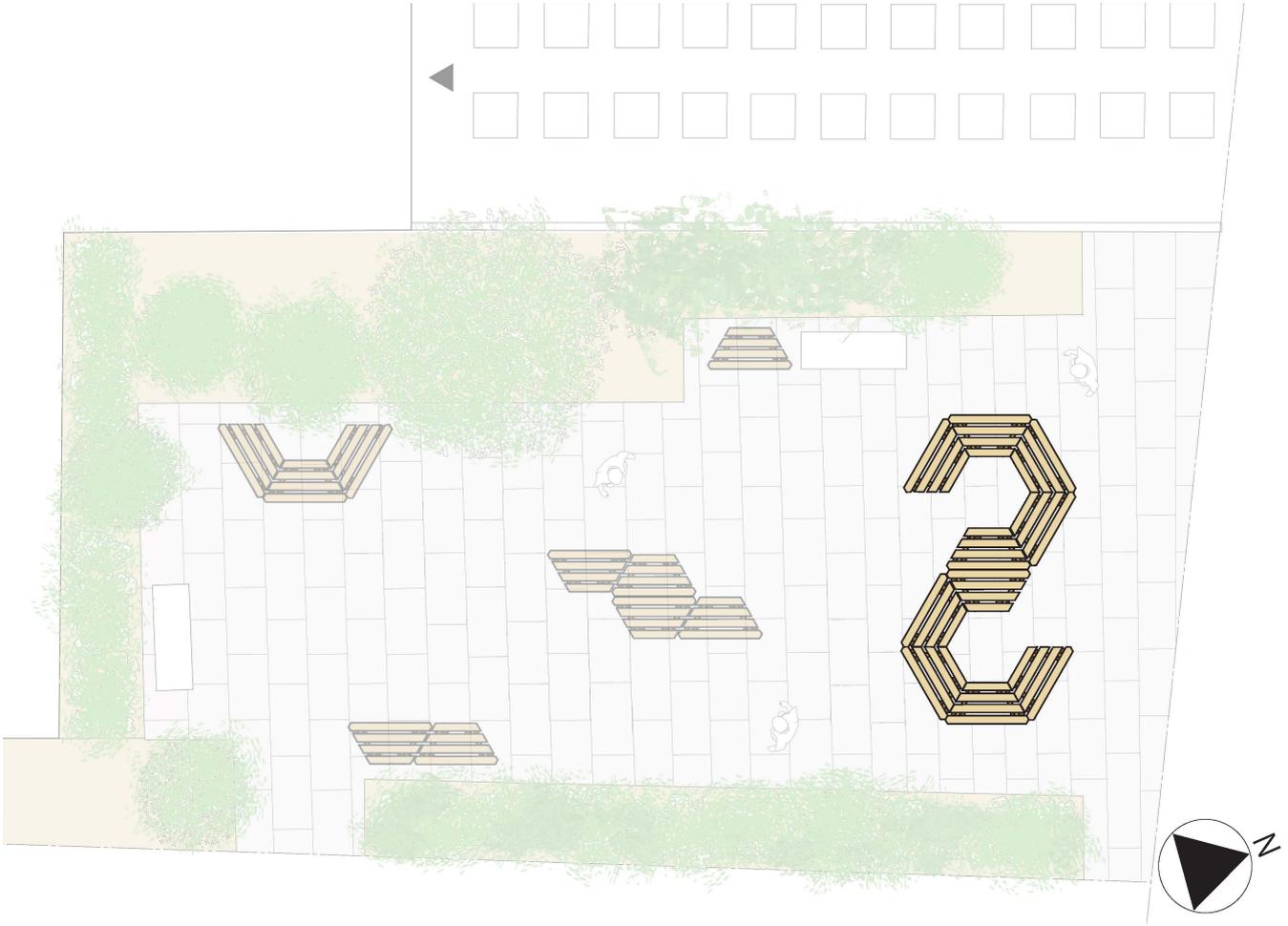
組み合わせ 例



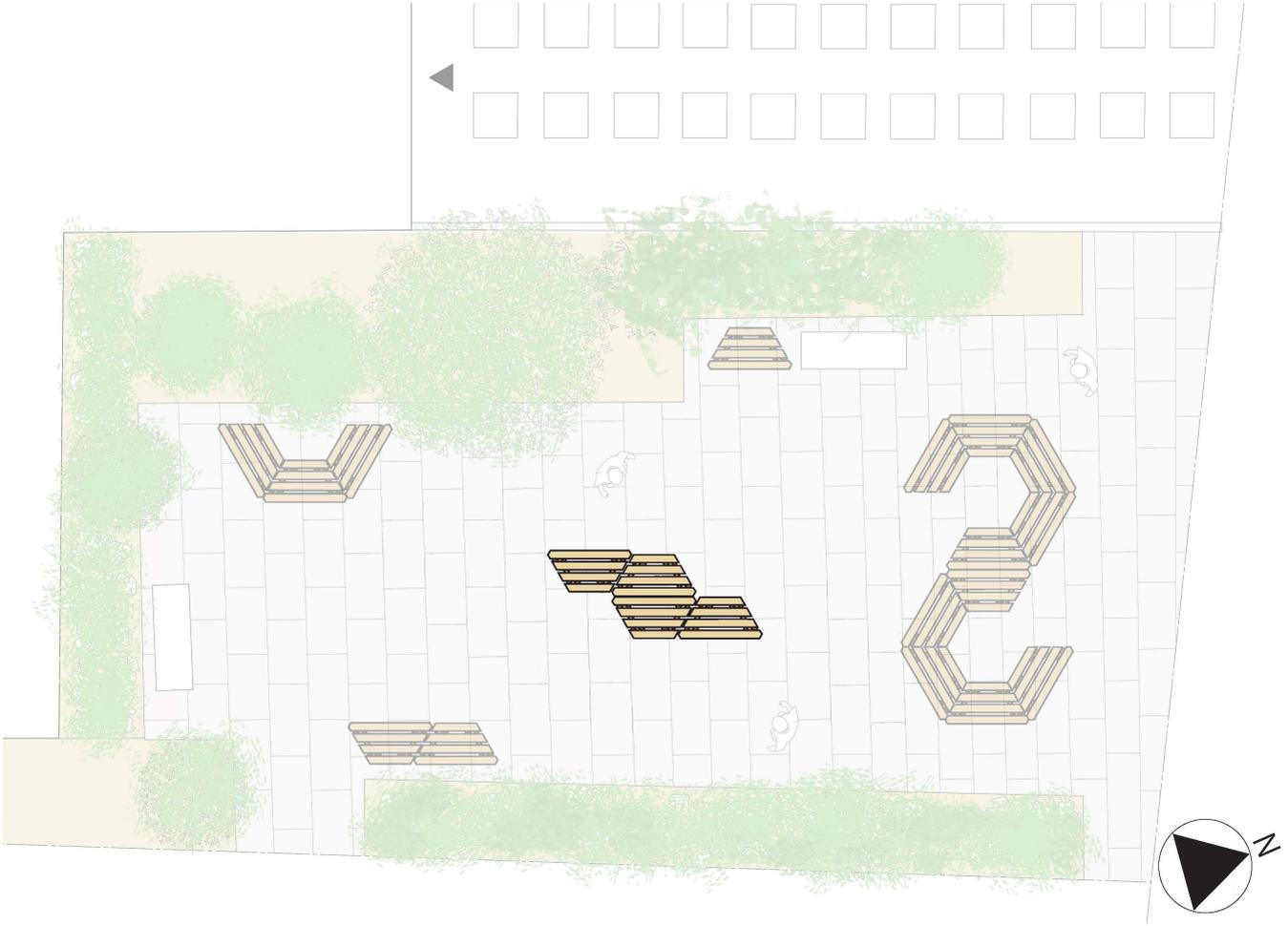
配置図 (S=1/80)



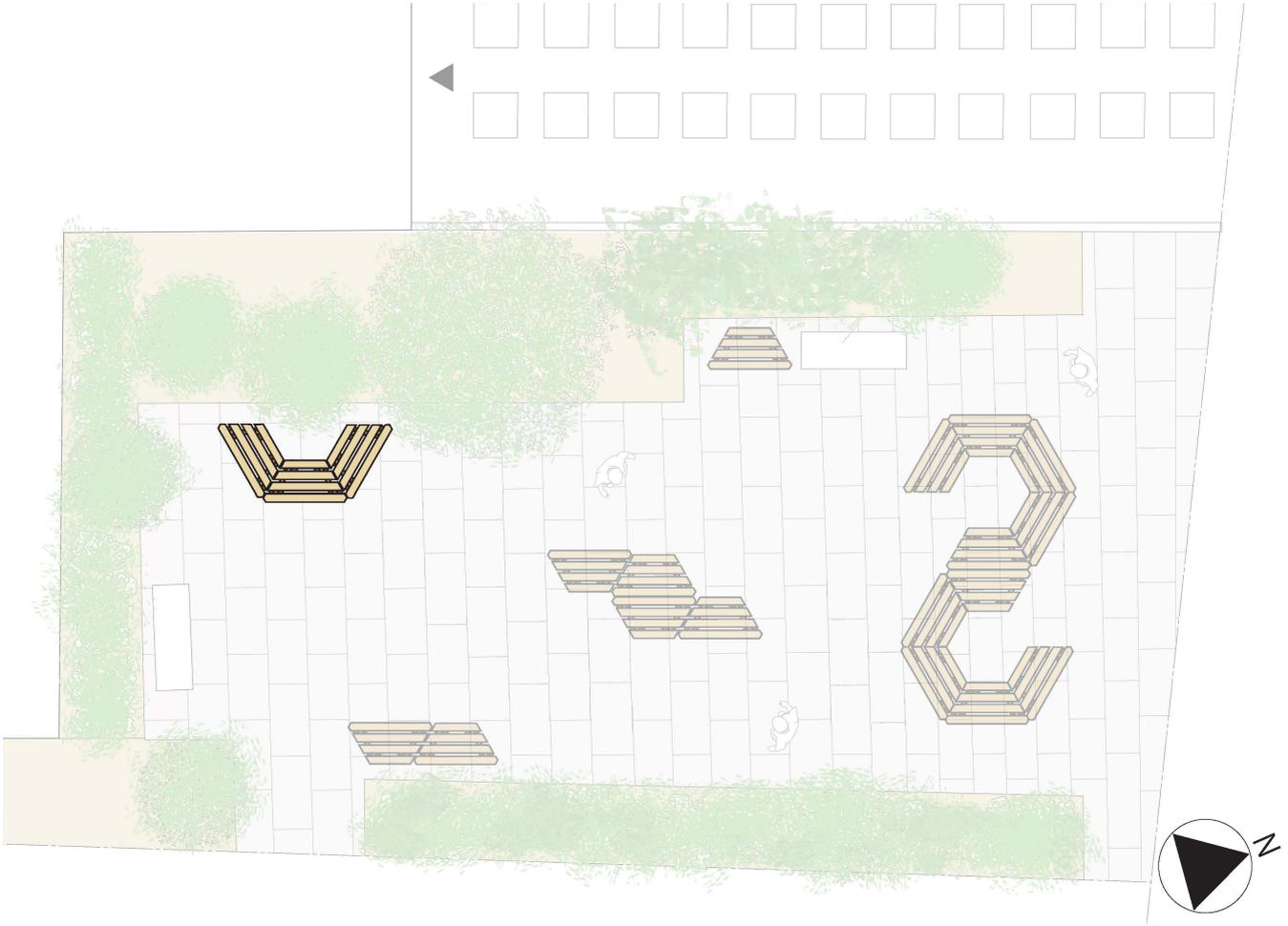
配置図 (S=1/80)



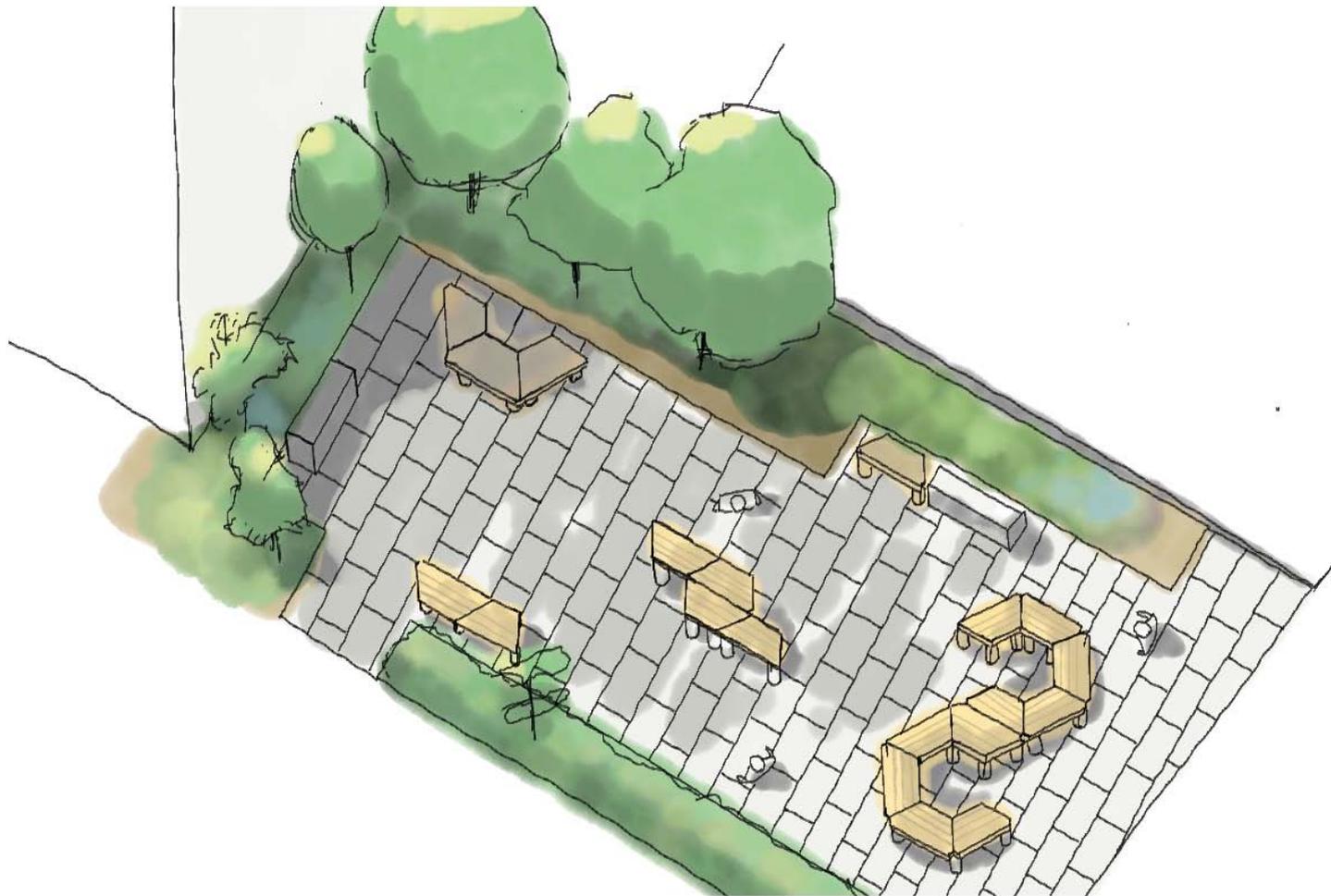
配置図 (S=1/80)



配置図 (S=1/80)



まとめ



ご清聴ありがとうございました
ございました

